

微酸性電解水によるブドウ晩腐病防除技術の開発

微酸性電解水は、希塩酸を電気分解することで精製されます。殺菌効果を有し、食品添加物の指定を受けるなど安全性が高いことから、様々な場面で利用が広がっています。農業分野での利用法としては、農薬（殺菌剤）に代わる防除技術が考えられます。ここでは、ブドウ晩腐病への防除利用を検討しました。

微酸性電解水精製装置

1時間当たり 240L 精製できる装置で 140万円。

精製された微酸性電解水は、外のタンクに貯蔵されます

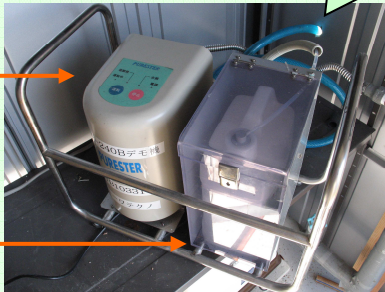
ブドウ晩腐病

発生すると収穫皆無となる病気のため、開花期から袋掛け期まで、10日に1回の農薬散布が行われています。

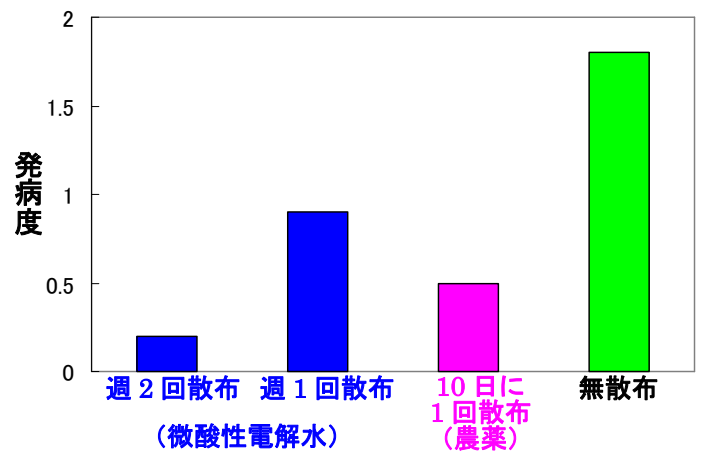


精製装置本体

希塩酸タンク



	5月	6月			7月
		開花期			袋掛け期
週2回散布 (微酸性電解水)	●	● ● ● ● ● ● ●			7回散布
週1回散布 (微酸性電解水)	●	● ● ● ● ● ● ●			4回散布
10日に1回散布 (農薬)	●	● ● ● ● ● ● ●			3回散布



微酸性電解水と農薬の防除効果比較 (ブドウ晩腐病)

注) 発病度が高いほど、病気の発生が多いことを示します。

微酸性電解水は化学合成農薬（殺菌剤）の代替剤として利用可能なことを明らかにしました。

しかし、散布間隔を短くする必要があり、省力的な散布方法との組合せが今後の課題です。